

申吾の
ほっと
コラム



今回のテーマ 「さあ、縄文一万年の旅へ」

青森県知事 三村申吾

7月27日午後6時51分、世界遺産委員会議長の木槌が振り下ろされた。「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界遺産委員会において世界文化遺産に登録された瞬間である。

イコモス(国際記念物遺跡会議)から、ほぼ満点に近い評価を頂いていたので、自信はあったものの、北海道・青森県・岩手県・秋田県の4道県で本格的なチャレンジを始めた2007年からの14年間と比べれば、最後は実質4分の審議であったが、「今度こそ、今度こそ、とにかく何事もなく、そのまま、ゴール(決定)してほしい」とオンライン会議につながるカメラの前で必死に祈った、これはこれで長い4日間だった。

決定後は、感謝のスピーチを世界遺産委員会のメンバーにオンラインで行い、ようやく「しゃこちゃん(遮光器土偶)やったね!」と一息ついた。(このところ、遮光器土偶ニット帽、遮光器土偶メガネに縄文服を身にまといPR活動をしていたからだろうか、決定前夜、しゃこちゃんと抱き合って喜ぶ夢を見ていた。)

県のパブリックビューイング会場での感謝と

御礼のスピーチでは、万感胸に迫り声が出ず、やっと一言「耐えて、耐えて、耐えて、ついにたどり着きました」と話すことができた。

ここに至るまで辛抱強く応援して下さった4道県民の皆さま、県議会の皆さま、世界遺産登録推進国会議員連盟の皆さまをはじめ、文化庁やたくさんの方々の関係者の方々に改めて心から感謝したい。

中でも、艱難辛苦(かんなんしんく)を共にした岡田世界文化遺産登録専門監、叱咤激励しながらどんと構えて支えて下さった若井「青森県の縄文遺跡群」世界遺産をめざす会会長、何度落ちても「大丈夫、次頑張ろう」と常にニコニコ応援して下さった一町田三内丸山応援隊代表理事たちと、熱い感激の時を一緒に迎えられたことを心から喜びたい。

その後、県庁南棟への横断幕の設置、世界文化遺産登録を記念し特別塗装したJAL機の就航など、喜びを実感する場面は数多くあったが、決定翌日に三内丸山遺跡センターを訪ね、「縄文ビッグウォール(三内丸山遺跡から出土した縄文土器のかけらをあしらった巨大な壁)」の前に一人対峙

した途端に、とめどなく涙があふれ出てきた。

—この北辺の地に、一万年以上の長きにわたって採集・漁労・狩猟を続けながら諍いなく定住し、独特な文化を築き上げた先人たちが確かに居た。

私たちと確実につながっているその縄文人たちの一万年を、もっと詳らかにし、その生きた証と穏やかで自然と共生する精神文化をしっかりと伝承していかなければならない—

さあ、それでは県民の皆さん、縄文一万年の旅をしてみませんか。そして縄文人たちの生き方と思いに共感してみませんか。

スタートは居住地が形成された縄文の始まり、外ヶ浜町の大平山元遺跡。そして、つがる市の田小屋野貝塚や七戸町の二ツ森貝塚のように集落は発展し、拠点集落のシンボル、三内丸山遺跡が出現。その後成熟期に入り、青森市の小牧野遺跡や弘前市の大森勝山遺跡、さらにつがる市の亀ヶ岡石器時代遺跡や八戸市の是川石器時代遺跡へと続いていきます。

世界文化遺産登録を契機に、縄文人たちの在りし日に思いをはせ、一万年の旅先で縄文を体感したとき、県民の皆さんも、私たちが忘れていているかもしれない先人たちからの大切なメッセージを感じることでしょう。



縄文PRキャラクター「Jタロー」

今回の「未来に継ぎたい」▶ あおもりの縄文愛 を継ぎたい!

世界が認めた
北海道・北東北の
縄文遺跡群」。



—世界文化遺産登録がついに実現。今のお気持ちはいかがですか。岡田 まずは率直に嬉しいですね。そしてホッとしています。県が世界遺産登録を目指すこと表明

したのが2005年10月。自分が現職中に、少なくとも国内推薦候補には押し上げるつもりでやってきましたが、登録までこぎつけることができずじまつていました。—長い道のりの中で諦めようと思ったことは？

岡田 世界遺産登録はとても時間がかかりました。でも、目指すと決めたなら、覚悟と信念を持って突き進むしかない。推薦書を書いてはそのたびに国の文化審議会から課題が提示され、それを解決しては、また書き直して。とにかく、この縄文遺跡群の価値をいかに分かりやすく伝えるかに注力してきました。何度も推薦候補を

見送られたものの、悲観したことは一度もないんです。目標には着実に近づいているという実感はいつもありました。県民の皆さんの興味関心や期待の高まりも感じていたので、それが励みにもなっていましたね。

—今後の展望は？

岡田 ふるさとに世界文化遺産があることを誇りに思ってもらうためにも、この17の遺跡群の価値を子どもたちにも分かるように伝えていく、各自治体の取り組みが必要だと考えています。県民の皆さんには、まずは地元での遺跡へ実際に足を運んで楽しんでほしいですね。

県内で活躍している人たちが未来に継ぎたいさまざまな「あおもり愛」を語ります。



青森県企画政策部
世界文化遺産
登録専門監

おかだ やすひろ
岡田 康博

PROFILE

大学卒業後、青森県庁に入庁。県埋蔵文化財調査センターの現場責任者や、文化庁文化財調査官などを経て、30年にわたり三内丸山遺跡の調査・研究に携わる。「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に取り組んできた。

撮影場所/
三内丸山遺跡
(青森市)

指摘された課題をクリアするまで推薦書を書き直した回数は100回以上にも。「縄文人の“日々の生活”が世界文化遺産として認められたことは、感慨深い」と振り返ります。